

5. 正答率と相関のある学校の取組の分析

(1) 分析方法

1) 分析対象学年

- ・ 小学校第6学年（令和3～5年度の第6学年児童）
- ・ 中学校第3学年（令和3～5年度の第3学年生徒）

2) 分析対象教科及び質問

- ・ 「学習内容定着度調査」における，小学校では国語と算数，中学校では国語，数学，英語の正答率の平均
- ・ 「学習と生活についてのアンケート」における，学習についての設問

3) 分析手順

① 「学習内容定着度調査」の正答率の推移に特徴が見られる学校の選定

Aグループ < A-I > 本市正答率との差が，令和3～5年度の間には2回連続してプラスの方向に推移するとともに，合計1ポイント以上変化しており，正答率に相対的な上昇傾向が見られるグループ

< A-II > 毎年度，有意に本市正答率を上回っているグループ
(ただし，B-Iの条件にも該当する学校を除く)

Bグループ < B-I > 本市正答率との差が，令和3～5年度の間には2回連続してマイナスの方向に推移するとともに，合計1ポイント以上変化しており，正答率に相対的な下降傾向が見られるグループ

< B-II > 毎年度，有意に本市正答率を下回っているグループ
(ただし，A-Iの条件にも該当する学校を除く)

② 正答率と相関が見られる「学習と生活についてのアンケート」の設問の選定

Aグループで特徴的な結果が見られる設問

肯定的回答率が2回連続して上昇しているか，令和4・5年度の肯定的回答率が本市平均を有意に上回っている設問

Bグループで特徴的な結果が見られる設問

肯定的回答率が2回連続して下降しているか，令和4・5年度の肯定的回答率が本市平均を有意に下回っている設問

③ 各グループの②の状況を集計し，正答率向上が期待できる具体的取組について分析

- ※ 集計表においては，②の条件を満たす学校数がグループの半数程度に達している設問を○印で示す。

(2) 分析結果

1) 小学校

「学習と生活についてのアンケート」の学習についての設問	Aグループ	Bグループ
授業の始まりには席についている。		
授業に必要な学習用具は必ず持ってきている。		○
先生や友だちの話を、最後まできちんと聞いている。		
グループなどでの話合いに自分から進んで参加している。	○	○
自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる。	○	○
ものごとをいろいろな視点や立場から考えている。	○	○
授業を集中して受けている。	○	
学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。		○
しょう来の仕事についての希望を持って学習している。	○	○
学習していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。	○	
学習して、いろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい。		○
学習して身に付けた知識は、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う。		
授業で習ったことを、自分なりに分かりやすくノートなどにまとめている。		
新しく習ったことは、何度もくり返して練習している。	○	○
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる。		○
本を利用して、学習に関する情報を得ている。	○	○
インターネットやパソコンを利用して、学習に関する情報を得ている。	○	○
インターネットを活用するとき、正しいかどうかよく考えて情報を得ており、また、責任を持って情報を発信している。		
パソコンのキーボードを使って、文章を入力することができる。		
調べたことをパソコンを使ってまとめることができる。		
パソコンを使って、相手に分かりやすく自分の考えや調べたことを伝えることができる。		○
学校から、家庭学習に必要な教科書などの学習用具を持ち帰っている。		○
宿題はきちんとやり、期限までに提出している。	○	○
授業で習ったことを、その日のうちに復習している。	○	
自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる。	○	○
テストでまちがえた問題は、もう一度やり直している。	○	○
前の日のうちに、次の日の学校の用意をしている。	○	○
家の人は、あなたの学習に関心があり、必要な注意やアドバイスをしてくれる。		○
社会のできごとに関心があり、自分から進んで情報を集めることがある。	○	
社会で問題になっていることについて、どうすればよいかを考えたことがある。		
ふだんから、「ふしぎだな」「なぜだろう」と感じることもある。		
地いきのお祭りに進んで参加したり、コンサートや演劇、絵画をかん賞したりするなど、文化や芸術にふれる機会がある。		
様々な人の生き方に感動することがある。		
いろいろな種類の本を読むことは、楽しい。		○

※ ○は(1)3)②の条件を満たす学校数がグループの半数程度に達している設問

- 以下の設問等では、「Aグループ」、「Bグループ」ともに、肯定的回答率の特徴（Aでは上昇・高い、Bでは下降・低い）が見られる。
 - ・ グループなどでの話合いに自分から進んで参加している。
 - ・ 自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる。
 - ・ ものごとをいろいろな視点や立場から考えている。
 - ・ しょう来の仕事についての希望を持って学習している。
 - ・ 新しく習ったことは、何度もくり返して練習している。
 - ・ 自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる。
 - ・ テストでまちがえた問題は、もう一度やり直している。
- 以下の設問等では、特に「Aグループ」で、肯定的回答率の特徴（上昇・高い）が見られる。
 - ・ 授業で習ったことを、その日のうちに復習している。
 - ・ 社会のできごとに関心があり、自分から進んで情報を集めることがある。
- 以下の設問等では、特に「Bグループ」で、肯定的回答率の特徴（下降・低い）が見られる。
 - ・ 学習して、いろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい。
 - ・ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる。

2) 中学校

「学習と生活についてのアンケート」の学習についての設問	Aグループ	Bグループ
授業の始まりには席についている。		
授業に必要な学習用具は忘れずに持ってきている。		
先生や友だちの話を、最後まできちんと聞いている。		
グループなどでの話合いに自分から進んで参加している。		○
自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる。		○
ものごとをいろいろな視点や立場から考えている。		○
授業を集中して受けている。		○
学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。	○	
将来の進路や職業についての希望を持って学習している。	○	
学習していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。		
学習して、いろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい。	○	
学習して身に付けた知識は、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う。		
授業で習ったことを、自分なりに分かりやすくノートなどにまとめている。	○	○
新しく習ったことは、何度もくり返して練習している。		○
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる。	○	○
本を利用して、学習に関する情報を得ている。	○	○
インターネットやパソコンを利用して、学習に関する情報を得ている。		○
インターネットを活用するとき、正しいかどうかよく考えて情報を得ており、また、責任を持って情報を発信している。		
パソコンのキーボードを使って、文章を入力することができる。		○
調べたことをパソコンを使ってまとめることができる。		○
パソコンを使って、相手に分かりやすく自分の考えや調べたことを伝えることができる。	○	○
学校から、家庭学習に必要な教科書などの学習用具を持ち帰っている。		
宿題はきちんとやり、期限までに提出している。	○	
授業で習ったことを、その日のうちに復習している。		
自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる。		○
テストでまちがえた問題は、もう一度やり直している。		○
前の日のうちに、次の日の学校の用意をしている。		○
家の人は、あなたの学習に関心があり、必要な注意やアドバイスをしてくれる。		○
社会のできごとに関心があり、自分から進んで情報を集めることがある。	○	○
社会で問題になっていることについて、どうすればよいかを考えたことがある。		○
ふだんから、「ふしぎだな」「なぜだろう」と感じることもある。		○
地域のお祭りに進んで参加したり、コンサートや演劇、絵画を鑑賞したりするなど、文化や芸術に触れる機会がある。	○	○
様々な人の生き方に感動することができる。		○
いろいろな種類の本を読むことは、楽しい。	○	○

※ ○は(1)3)②の条件を満たす学校数がグループの半数程度に達している設問

- 以下の設問等では、「Aグループ」、「Bグループ」ともに、肯定的回答率の特徴（Aでは上昇・高い、Bでは下降・低い）が見られる。
 - ・ 授業で習ったことを、自分なりに分かりやすくノートなどにまとめている。
 - ・ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる。
 - ・ 社会のできごとに関心があり、自分から進んで情報を集めることがある。
- 以下の設問等では、特に「Aグループ」で、肯定的回答率の特徴（上昇・高い）が見られる。
 - ・ 将来の進路や職業についての希望を持って学習している。
 - ・ 学習して、いろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい。
- 以下の設問等では、特に「Bグループ」で、肯定的回答率の特徴（下降・低い）が見られる。
 - ・ グループなどでの話合いに自分から進んで参加している。
 - ・ 自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる。
 - ・ ものごとをいろいろな視点や立場から考えている。
 - ・ 新しく習ったことは、何度もくり返して練習している。
 - ・ 自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる。
 - ・ テストでまちがえた問題は、もう一度やり直している。
 - ・ 社会で問題になっていることについて、どうすればよいかを考えたことがある。
 - ・ ふだんから、「ふしぎだな」「なぜだろう」と感じることもある。

(3) 考察及び正答率が上昇傾向にある学校の取組例

小学校

<正答率向上が期待できる指導のポイント>

- ア 主体的に学習に取り組む態度を育むとともに、自分の考えを根拠を挙げながら表現できるように指導することにより、正答率の向上が期待できる。
- イ 学習課題解決に向けた調査や情報収集の方法、学習計画の立て方など、学習の仕方を身に付けさせるための指導を意識的に行うことにより、正答率の向上が期待できる。
- ウ 反復学習や復習、授業で習ったことや調べた内容をノートやパソコンを使ってまとめることなど、基本的な学習習慣を身に付けさせることにより、正答率の向上が期待できる。

<Aグループの学校の取組例> (正答率が上昇傾向にある市内小学校より聞き取った状況)

◆ 児童が表現し伝え合う協働的な学びにおける授業の工夫改善

【取組内容】

- ・授業のねらいの明確な提示と流れが分かりやすい授業展開による授業改善
- ・学び合う場面での多様な学習形態による話し合い活動の充実

【配慮点】

- ・実社会や実生活に関わる教材を取り入れることに努め、宇都宮モデルを活用した学習の進め方を意識した授業展開による共通実践に努めている。
- ・問題解決過程において、児童が自分の考えをしっかりと持ち、学習内容に応じてペアトークやグループ活動、全体による話し合いなどによる学び合いの活性化を図っている。

◆ 個別最適な学びに向けた指導の充実

【取組内容】

- ・デジタルドリルや学習プリントを活用した基礎的・基本的な知識及び技能の習得
- ・国語の学習を中心とした作文力の育成

【配慮点】

- ・朝の学習等においてデジタルドリル等を活用したり、基礎的な問題から学力調査の発展的な問題など、発達の段階に応じた問題を用意し、児童が自由に選択して取り組める工夫をしたりするなどして、知識・技能の定着を図っている。
- ・国語の学習を中心に、図書資料や新聞を活用して短作文に取り組み、「要点をまとめる力」や「自分の考えを述べる力」を育成し、「書く力」の向上に努めている。

◆ 家庭学習の充実に向けた取組

【取組内容】

- ・学期や学年末の学習のまとめ月間の設定、自主学習ノートを利用した共通実践
- ・家庭学習における計画、実践、振り返りのサイクルの構築、保護者による評価の実施

【配慮点】

- ・家庭学習の充実を図るため、効果的な自主学習が実践されている児童のノートを価値付けて学級で共有したり、廊下に展示して友達の自主学習ノートを見合ったりするなどして、より具体的な自主学習の方法を学び、児童の主体性を高めている。
- ・個人用パソコンを活用してアンケートをデジタルで実施し、家庭学習の取組状況を分析した結果をもとに学習週間の個人目標を設定するなどして、児童がより主体的に取り組めるように努めている。

中学校

<正答率向上が期待できる指導のポイント>

- ア 授業の受け方に係る約束事項の徹底を図ることや、日々の学習内容の復習や宿題など基本的な学習習慣を身に付けさせることにより、正答率の向上が期待できる。
- イ 学習課題解決に向けた調査や情報収集の方法、学習計画の立て方など、学習技能を身に付けさせるための指導を意識的に行うことにより、正答率の向上が期待できる。
- ウ 社会の出来事や、将来の進路や職業についての関心を高めるなど、積極的に学習に向かう姿勢を養うことにより、正答率の向上が期待できる。

<Aグループの学校の取組例> (正答率が上昇傾向にある市内中学校より聞き取った状況)

◆ 授業改善を目的とした校内研修の充実

【取組内容】

- ・学力調査等の結果分析による、生徒の学習に係る課題とその要因の把握
- ・授業改善のための職員研修の充実と教員相互授業参観による授業研究

【配慮点】

- ・国、県、市における学力調査の結果と意識調査をもとに、生徒の実態を把握し、日々の授業実践に必要な課題を明確にし、授業改善に向けた学校全体の共通実践の徹底を図っている。
- ・学力調査の結果を踏まえつつ、国語の学習を中心としながら、全教科で「書く力」「話す力」の育成をテーマにした1人1授業による授業研究を実施し、教員の指導力の向上、生徒の理解度・定着度の向上に努めている。

◆ 学習内容の定着を図るための共通実践

【取組内容】

- ・デジタルドリル等を活用した個別最適な学びを実現する学習時間の設定
- ・生徒が取り組む課題や自主学習の実施状況の把握と支援の徹底

【配慮点】

- ・朝の学習の時間に、デジタルドリル等を活用した「学習の週」や、読む力を育む「読書の週」などをバランスよく計画したり、定期テスト前の部活動休止期間に、希望者を対象に放課後の時間で期間限定の学習相談を実施したりすることで、基礎学力の定着を図っている。
- ・各単元の終末に実施する確認テストや、地域学校園で取り組んでいるミニテストを活用するなどし、定着を図るための取組をスモールステップで実施している。

◆ 家庭学習の充実に向けた取組

【取組内容】

- ・学力の定着と家庭学習を習慣化させるための効果的な宿題の出し方の工夫
- ・定期テストに向けた学習計画表の活用と学習のまとめ月間の設定

【配慮点】

- ・生徒が自主的に学習に取り組めるよう、各教科の学習のねらいや学び方を具体的に伝えるとともに、学年に応じた目標を設定するなど、自身の学習方法を改善できるよう促している。
- ・定期テストに向けた一定の期間を学習のまとめ月間として設定し、目的をもって計画的に学習することができるように促している。